

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	地域計画の推進につながるアイデア	山口県宇部市
アイデア名 (注1) (公開)	通学児童の見守りを通じた世代間交流の実現と表彰制度の確立		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	宇部市地域計画推進隊		
チーム属性 (公開)	<input type="checkbox"/> 1. 市民によるチーム	<input type="checkbox"/> 2. 学生によるチーム	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	5名		
代表者情報	氏名 (公開)	立石英一郎	
メンバー情報	氏名 (公開)	上原賢祐	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて内容そのものをわかりやすく示してください。1 ページ以内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

#### ■ アイデアの概要について

提案するアイデアは 2 つの目的があります。

1. 子どもたちの日々の登下校の見守りを通じた世代間交流の活性化
2. ボランティアで見守り活動をしている立哨者を表彰できる制度の実現

これらの目的を達成するためのアプリを実装し、社会制度化を目指します。



#### ■ 背景：地域計画推進のカギは登下校の見守りにある！？

宇部市の地域計画を紐解くと、これから市内各校区が推進していく活動のうち実に 43% の内容が「子どもの見守り」に関わっていると読み取れました（次ページのアイデアの論拠を参照）。この「子どもの見守り」には地域住民の積極的な参加が不可欠ですが、その中でも私たちは子どもの登下校時の立哨ボランティアに注目しました。

##### <立哨ボランティアに注目した主な理由>

- ◇ 年少世代が巻き込まれる可能性のある事件や事故を未然に防いでいる
- ◇ 子育て世代の親をはじめ、地域全体に安心と安全を与えている
- ◇ 高齢世代の社会参加により、生き生きと、楽しく、健康に生きることができる
- ◇ これだけのメリットがあるにも関わらず、立哨は無償ボランティアで行われている

#### ■ アプリ化：もっと世代間交流そして表彰。これで地域計画を推進しよう！

アプリ化にあたり、私たちはまず無償ボランティアに対する表彰を考えました。しかし、聞き取りやデータ調査を通じて、彼らの地域愛が「地域の少子高齢化に対する不安の裏返し」であることも臆気ながら見えてきました。そこで本アプリには、世代間交流を通じて、現在の年少世代が地元に残る仕掛けを盛り込むことにしました。

- ◇ 立哨ボランティア活動の見える化から表彰へとつながる仕組みを作ろう
- ◇ 子どもたちが立哨ボランティアと交流することで「宇部市ならではの思い出」を得る仕掛けを作ろう

右図は、システムの全体構想を示しています。これらは、スマートフォンアプリと QR コードを用いた方法で簡単かつ低コストで実装が可能です。詳細は「アイデア実現までの流れ」にて詳しく記しております。

##### <システムの大まかな説明>

子どもたちの持つ QR コードを立哨者の持つスマートフォンによってスキャンすると、①交流を認識し、サーバ上に②記録されます。この②記録されたデータと、オープンデータの校区别住民基本台帳を参考に③表彰制度を作ります。②記録されたデータは一般の方も④確認できます。また、子どもの持つ QR コードを読み込むと、立哨ボランティアとの交流により進化していく 3D キャラクターを④確認できます。



## (2) アイデアの論拠（公開）

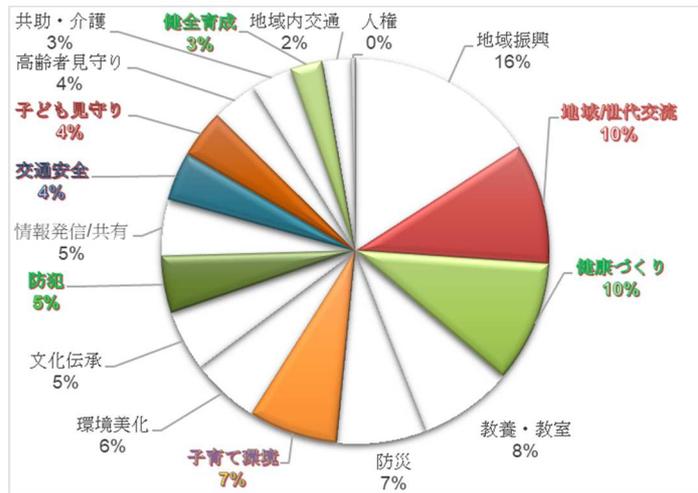
アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

### ■ アイデアの論拠をサポートするデータや証拠

#### 子どもの見守りを選んだ理由とは：山口県宇部市「各校区の地域計画」から

右図は宇部市に住む地域の皆さんがこれから推進される計画の項目をまとめたものです。2位、3位に「地域/世代交流」と「健康づくり」といった項目が入っていますので、まずはこれにフォーカスし、さらにこの2大キーワードと親和性の高い項目を探してみます。

すると、子どもの見守りという項目が見つかりました。子どもの見守りは「登下校時の子どもの見守り」を指していますが、宇部市の24校区では既にも実践されているため、これからの地域計画には大きく挙がってこなかったようです。



この「登下校時の子どもの見守り」と他の項目との関連性について見てみることにしましょう。

#### <子どもの見守りと他の項目との関連性>

- ◇ 世代交流 … 高齢者や子育て世代と子ども世代の世代間交流
- ◇ 健康づくり … 朝と昼の軽作業による高齢者の健康増進
- ◇ 子育て環境 … 地域をあげて子どもを見守ることによる子育て世代の安心
- ◇ 防犯 … 顔見知り同士が行うことによる不審者の見分け
- ◇ 交通安全 … 交通弱者である子どもたちの保護
- ◇ 子ども見守り … 子どもたちを守るという地域の大人の一体感とそこからの交流
- ◇ 健全育成 … 地域一体となった子どもの健全育成

これら7つの項目を合計すると、実に**全体計画の43%**に達します。

このことから「子どもの見守り」の中でも、特に子どもの登下校時の見守りに焦点をあて、アプリ化を行うことで、各校区で策定された地域計画の推進に役立つシステムができるのではないかと判断しました。



## なぜ立哨ボランティアを表彰しなければならないのか？

今現在、立哨ボランティアは無償で行われています。今更、彼らを評価し、表彰する必要はないという方もいらっしゃるかもしれません。しかし人は認められ褒められることにより、一層奮起することが以下のデータより分かります。今現在の地域愛にあふれた活動を後押しするために、表彰制度は極めて有効な手段だと言えます。

### ➤ 「褒めることは、脳にとって金銭的報酬にも匹敵する社会的報酬」であることを科学的に証明

「プロスワン」の発表論文“Social rewards enhance the offline improvement in motor skill”

### ➤ 心理的にも、動機づけや、自分の行動を肯定する自尊感情を高める大きな作用

青木直子、ほめることに関する心理学的研究の概観、名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要、52、123-133.

### ➤ サイバーエージェントの社員の業績をメールでほめる制度で離職率が従来の三分の一に！

曾山哲人、サイバーエージェント流成長するしかけ、日本実業出版社、2010.

## 子供たちに「宇部市ならではの思い出」を与えなければならない理由とは

私たちは子どもの見守りアプリを通じて世代間交流および人的交流を深め、なおかつ地域の少子高齢化問題に少しでも歯止めをかけたいと考えました。

### ＜過去の児童見守りシステムはハードウェアの実験場＞

これまでも、多くの児童見守りシステム事業が行われてきております。総務省 HP には平成 18 年度補正予算 12.2 億円をつぎ込んだ見守り事例集がありますが、どれも GPS、IC タグ、Blue Tooth 等のハードウェアを使った社会実験に過ぎず、見守られる側の子どもが楽しむとか、少子高齢化に挑むといった視点は見られません。



総務省、地域見守りシステムのモデル事業 事例集

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/top/local\\_support/](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/local_support/)

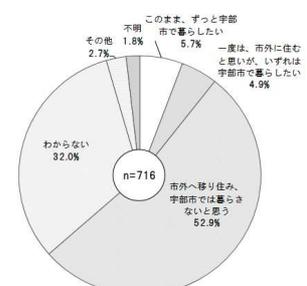
### ＜私たちが狙うのは、人的交流を中心に据えた見守りシステムによる若者世代の定住意向の改革＞

本アプリでは立哨ボランティアの方との交流で、3D キャラクターが進化するという仕組みを実装します。

他所にない特別な思い出、地元の人々との日々の交流は、子どもたちにとって**宇部市に対する特別な思い出**や**地元意識を育む**ことになるでしょう。その結果、宇部市が抱えている**若者の定住意向の問題**が解決できる可能性があるのです。

右図は平成 27 年 10 月進学した学校を卒業後の宇部市への定住意向アンケート結果です（宇部市人口ビジョンより）。「いずれ宇部市に住みたい」まで含めても 1 割程度、「住まないと考える」は 5 割以上もあり、その理由としては「宇部市にあまり執着がないから」が 5 割以上を占めています。

■ 今後も宇部市に住みたいと思うか



宇部市の人口は平成 7 年以降減少傾向にあり、現在のわずかな年少世代もいずれ宇部市を離れ、生産年齢人口はますます縮小していくことが予想されています。**宇部市に対する特別な思い出や地元意識がなければ U ターン**

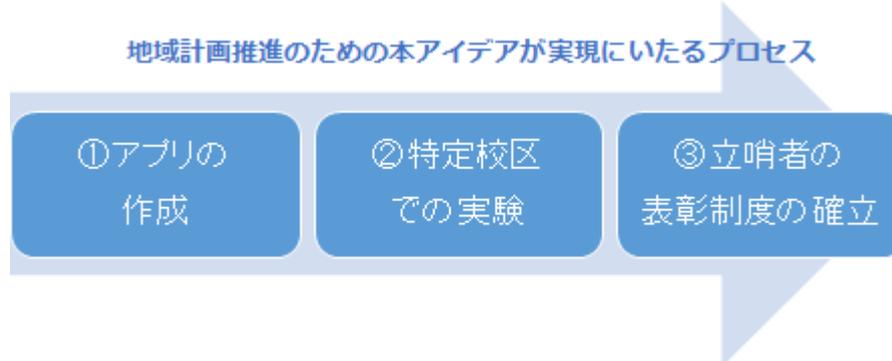
**すら期待できないことがアンケートから浮かび上がっています。**ですから宇部の子どもたちには、地元の交流と宇部市ならではの思い出が必要なのです。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

#### ■ アイデア実現までの大まかな流れ

アイデアが実現にいたるプロセスとしては、以下の3ステップを踏むようになります。



- ① 児童の登下校時の見守りを通して世代間交流を図りかつ立哨ボランティア活動の見える化と表彰のための記録を行うアプリの作成を行います。
- ② 特定校区にて実証実験を行います。立哨時の交通安全に影響はないか、その他、無償ボランティアの評価付けに対する地域住民の意見聴取などを行い、これを①にフィードバックします。
- ③ 上記②がクリアできた時点で利用校区を広げるとともに、行政による表彰制度の確立を行います。なお、表彰制度に関する要望は随時挙げておくことにします。

#### ■ アイデアを実現する主体、必要な資源に関して

##### <アイデアを実現するための主体>

①	株式会社ニュージャパンレッジと山口大学
②	宇部市ならびに特定校区住民
③	宇部市ならびに全校区住民

##### <現実に必要な資源の規模>

- ① アプリについては、宇部市の主催するアプリコンテストにおいてプロトタイプを作成済みです。サーバの管理費用に関してはデータの規模により可変です。本システムでは児童と校区の識別のために QR コードを発行しますが、印刷やパウチ程度で足りるため、ハードの導入が必要な他の安心安全システムと比較しても導入コストは格安です。
- ② 初期の段階においては宇部市による特定校区への協力の要請が必要です。住民および立哨を推進する各団体への説明会を行い、期限を区切ってフィードバックを頂くような集まりの開催が必要となります。
- ③ 表彰状の市場価格は「A4 縦書き、クリームケント紙、100 枚セット」で 2,500 円程度。印刷代や人件費、表彰に協力を要請する市長の時間は未考慮も、見守りの立哨の表彰に月 2～3 人（または団体）程度であれば、可能な範囲であると推測しています。

## ■ アイデア実現にいたるまでのマイルストーン

	2017	2018			2019
① 基本的なアプリの設計と実装					
②-a 特定校区の選定と説明会					
②-b 特定校区における社会実験とフィードバック					
③-a 全校区説明会の実施					
③-b 表彰制度の確立					

2017年12月現在、「オープンデータアプリコンテスト宇部」において①のプロトタイプ版は作成済みであり、②の特定校区の選定について、市の担当者に先行して地域活動課や教育委員会をあたって頂いている状態です。今後も宇部市と調整を重ね、社会実験を行った上で、**2019年3月には立哨ボランティアの表彰を行いたい**考えです。

### <① 基本的なアプリの設計と実装>

#### 立哨者および校区を表彰するための公正な基準の設計

先々の表彰のため、設計においては、各校区で活動するボランティアの評価基準を定める必要性があります。この評価基準には、オープンデータである住民基本台帳の校区別世帯数を利用し、校区別および立哨者別の交流数を校区別世帯数で割ることで、“ハイタッチ率”としてランキング化することにしました。この方法であれば世帯数が少なく、児童数も少ない地域であっても、立哨者が多く参加することで、少なくとも校区別ランキングでは1位を取ることができ、地域内の共助の精神を表彰できると判断したからです。

#### 基本的なアプリの機能の設計と実装

立哨者設定画面、QR スキャナ画面のほか、ランキング画面を実装しました。ランキング画面は、「立哨ボランティア活動の見える化」の一環で、通常のウェブページにも展開を行います。今後は高齢者にも使いやすいよう文字を大きくするなどインターフェース面の改良を行ってゆく予定です。



#### 3Dビューアーの設計と実装

QRコードを読み込んだ時に3Dキャラクターが表示される機能の設計と実装を行いました。本表示機能自体は、家庭内において子どもと親が交流するための機能です。

ここで表示される3Dキャラクターは、「子どもたちが立哨ボランティアと交流することで獲得できるインセンティブ」に当たり、立哨者との交流が増えるごとに成長していくものです。

プロトタイプでは4パターンの踊る人形を用意しましたが、より子どもたちの興味をひくために恐竜の進化等、その他のバリエーションを模索していきます。

